

日本の労働環境の問題点

経営学部 経営学科 坪井ゼミ
B4R11096 芝垣 昂将

「卒業論文概要」

現在の日本ニュースなどで過労死や、企業の残業問題などが多く取り上げられている。メディアやニュースなどで多数とりあげられるにも関わらず労働問題に大きな改善は見られない。社会人として働き始める4年生にとって、労働問題は非常に重要であると考えた。

本論文の目的は、現在の日本が抱える労働問題を海外諸国の働き方や、雇用形態など様々な観点から比較、考察し、日本の労働問題の改善方法とこれからの日本の労働形態を考察することである。海外と日本の労働時間や、過労自殺の件数など厚生省のデータや参考文献をもとに比較する。ほかにも、日本が現在の雇用形態になった要因を、文献を参考に歴史や政治の背景から読み取り考察し、要因を考察し改善点を考えていく。この結果として、グローバル化が急速に進んでいる現在の日本経済において、戦後から続いてきた従来のメンバーシップ型雇用には限界が訪れているという結論に至った。これからの日本にはジョブ型雇用を導入していく必要があるということが今回の研究で明らかになった。